



近畿地方整備局

資料配布

配布日時

平成24年1月17日
14時00分

件名

名

第6回大和北道路地下水モニタリング検討委員会の 検討結果

概要

要

平成23年12月12日(月)10:00~11:30に開催しました「第6回大和北道路地下水モニタリング検討委員会」の検討結果について、お知らせします。

【開催の目的】

文化財の保全等の観点より、地下水の状況を把握し、適切なモニタリング方針を定めること

【検討結果】

(決定事項)

- 地下水モニタリング方針の策定について、平城宮跡における現地検証方法は妥当
- モニタリングエリアを拡大することは妥当

(今後の検討事項)

- 現地検証について、シミュレーションによる効果予測
 - モニタリングエリアについて、工事実施の際の観測孔の追加も含めた整理
- ※詳細は別添資料参照

【参考】

委員会資料は、以下のURLからご覧頂けます。
(奈良国道事務所・大和北道路のホームページ)
<http://www.kkr.mlit.go.jp/nara/yamatokita/index.html>

取扱い

配布場所

近畿建設記者クラブ
大手前記者クラブ
奈良県政・経済記者クラブ
奈良県文化教育記者クラブ
奈良市政記者会

問い合わせ先

国土交通省 近畿地方整備局 奈良国道事務所
副所長 安居 靖友 (内線 205)
調査課長 真野 将信 (内線 451)
電話：0742-33-1391 (代表)

第6回大和北道路地下水モニタリング検討委員会 議事概要

1. 日時

平成23年12月12日(月)10:00~11:30

2. 開催場所

近畿地方整備局 第1別館2階 第3会議室

3. 出席者(委員名簿は別紙のとおり)

<委員>

大西委員長、上原委員、西垣委員、松村委員、三木委員

4. 議題

- 継続観測データの報告(地下水位観測・平城宮跡の土質等)
- 地下水モニタリング方針の策定にむけて

5. 議事概要

- 地下水位観測について、変動要因の詳細な分析、過去の渇水の際の影響も踏まえた整理が必要
- 地下水モニタリング方針の策定について、平城宮跡における現地検証方法は妥当であるが、平時データの取得や考慮すべき事項、シミュレーションによる効果予測が必要
- モニタリングエリアを拡大することは妥当であるが、工事実施の際に観測孔を追加することの整理が必要

<委員からの主な意見>

- 地下水位の変動要因を地下水の利用形態や地形的特徴等も踏まえ、分析すること。
- 渇水の際の影響をどう考えるのか、過去のデータを把握し、理解・整理することが重要。
- 木簡の保存土壌は、これまで科学的に議論できなかったもので、基礎データとして公表しているのは意味のあるもの。
- 平城宮跡にある人工池は、この地域の公有化に伴い、木簡保存のために造られていると聞いている。平時のデータ取得を早期に行い、効果の検証をできるようにすること。
- 検証の際は、検証箇所の状態の把握、涵養効果を高める検討、降雨の影響も考慮すること。
- シミュレーションによる効果予測を実施すること。
- モニタリングエリアの設定はこれで良いが、第2回委員会で議論した工事の際に観測孔を追加して測るという主旨を含めて整理すること。

大和北道路地下水モニタリング検討委員会 委員名簿

委員長	おおにし ゆうぞう 大西 有三	京都大学理事・副学長
委員	うえはら まひと 上原 真人	京都大学大学院文学研究科教授
委員	たにぐち まこと 谷口 真人	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所研究部教授
委員	にしがき まこと 西垣 誠	岡山大学大学院環境学研究科 資源循環学専攻教授
委員	まつむら けいじ 松村 恵司	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長
委員	みき ひろし 三木 博史	株式会社三木地盤環境工学研究所長
委員	わだ せいご 和田 晴吾	立命館大学文学部教授

(委員は五十音順)